

2016年度第1四半期決算説明会



2016年7月29日

1. 2016年度第1四半期決算実績概要



ポイント 減収減益

(+-, +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲1,116	-	都市ガス	(▲915:原料費調整に伴う単価減等▲954、数量増+37)
		-	エネルギー関連	(▲211:LNG販売▲91(原油価格下落による販売単価減)、器具▲54(ガスター連結除外影響等)、エンジニアリングソリューション▲50(工事量減等))
営業費用	+642	+	都市ガス原材料費等	(+628:フレーム影響等による単価減+640、数量増▲12)
営業利益	▲474	-	都市ガス	(▲375:ガス粗利▲290(うちスライド差▲301)、固定費増他▲88億円)
		-	エネルギー関連	(▲42:LNG販売▲30(うちスライド差▲30)、器具▲15億円)
		-	電力	(▲30:小売販売経費、減価償却費増等による利益減)
特別損益	+29	+	投資有価証券売却益	+29 (当期29-前期0)

(単位: 億円)

	2016年度1Q	2015年度1Q	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	3,604	3,538	+66	+1.8%
売上高	3,757	4,873	▲1,116	▲22.9%
営業費用	3,286	3,928	▲642	▲16.3%
営業利益	471	945	▲474	▲50.2%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	477	950	▲473	▲49.7%
経常利益…①	472	933	▲461	▲49.5%
特別損益	29	0	+29	-
親会社株主に帰属する当期純利益	391	734	▲343	▲46.6%
気温影響…②	▲49	▲54	+5	-
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)…③	161	492	▲331	-
年金数理差異償却額…④	▲60	▲5	▲55	-
補正経常利益①-(②+③+④)	420	500	▲80	▲16.0%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)	年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率		期末資産 (億円)
						年金分	一時金分	
16年度1Q	108.16	41.09	17.3	15年度	2.92%	0.236%	0.000%	2,810
15年度1Q	121.43<▲13.27>	59.59<▲18.50>	17.6<▲0.3>	14年度	5.57%	0.829%	0.358%	2,810

<>内は、対前年度増減

期待運用収益率:2%

まず決算の概況でございます。

第1四半期の業績ですが、売上高が原料費調整に伴う単価減等により減収、原油価格下落及び円高影響により都市ガス原材料費の減少等による営業費用の減少が有ったものの、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はそれぞれ減益となりました。

売上高1,116億円・22.9%減少の主な要因は、都市ガスセグメントの915億円減、LNG販売や器具等のエネルギー関連セグメントの211億円減となっております。

一方、営業費用642億円・16.3%の減は、原油価格下落および円高影響によって都市ガス原材料費が628億円減少したこと等によるものです。営業費用は減少したものの売上高の減少額が上回り、営業利益は474億円・50.2%減の471億円となりました。

これらの結果、経常利益は461億円・49.5%減の472億円となりました。当期は、前年同期にはなかった特別利益として、投資有価証券売却益29億円を計上しております。以上により、親会社株主に帰属する当期純利益は343億円・46.6%減の391億円となりました。

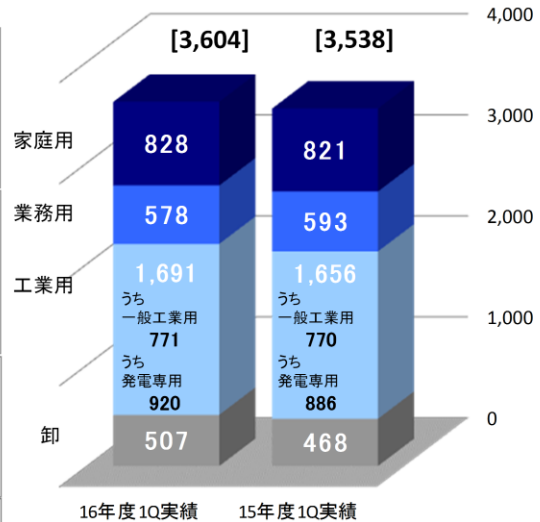
なお、原料価格の変動に伴うスライドタイムラグは、中ほど下段に記載の通り前年同期と同様に過回収ではあるものの、331億円減少しております。

2016年度1Q実績 連結ガス販売量 <対前年同期実績>

+66百万m³ (+1.8%)の増加
 [うち気温影響+4百万m³、+0.1%の増加]

<p>■ 家庭用 +7百万m³ (+0.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 +6百万m³ ● 日数影響 +11百万m³ ● お客さま件数 +14百万m³ ● その他 ▲24百万m³
<p>■ 業務用 ▲15百万m³ (▲2.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 ▲1百万m³ ● 日数影響 +4百万m³ ● お客さま件数 +6百万m³ ● その他 ▲24百万m³
<p>■ 工業用 +35百万m³ (+2.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般工業用: +1百万m³ ● 発電専用: +34百万m³
<p>■ 卸 +39百万m³ (+8.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 ▲1百万m³ ● その他 +40百万m³ <p>卸供給事業者需要増等</p>

ガス販売量: (百万m³以下四捨五入) 百万m³



お客さま件数(万件)

2016年度1Q実績	2015年度1Q実績	増減
1,141.8	1,128.5	+13.3 (+1.2%)

	2016年度1Q	2015年度1Q	増減
LNG液販売量(千t)	273	258	+15
平均気温(°C)	17.3	17.6	▲0.3

続きまして、ガス販売量についてご説明いたします。

第1四半期の連結ガス販売量は、対前年同期で6千6百万m³・1.8%増の36億4百万m³となりました。

発電用需要の増加により工業用が2.1%と増加したほか、5～6月の気温が前年同期と比較して低く推移した影響による給湯需要の増加等による家庭用の0.8%増などが、その主な理由であります。

■ ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	16年度1Q 実績	15年度1Q 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	3,604	3,538	+66 +1.8%
トーリングによる ガス使用量	431	353	+78 +22.1%
LNG販売量(m3換算)	342	323	+19 +5.9%
合計	4,376	4,214	+162 +3.9%

4ページには、財務会計上のガス販売量にトーリングによるガス使用量とLNG販売量を加算したビジョンベースのガス販売量を表示しておりますので、ご参照ください。

2016年度1Q実績 セグメント別売上高・セグメント利益<対前年同期実績>



(単位:億円)

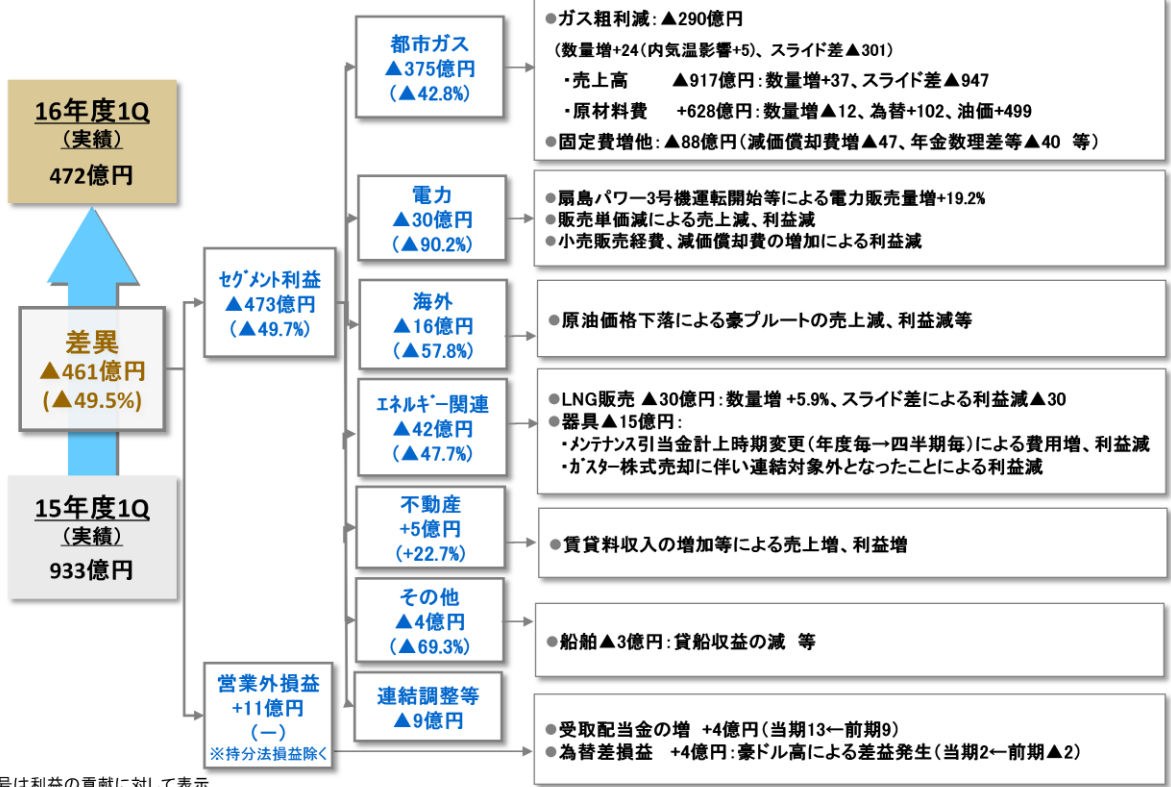
	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	2016年度1Q	2015年度1Q	増減	%	2016年度1Q	2015年度1Q	増減	%
都市ガス	2,568	3,483	▲915	▲26.3	501	876	▲375	▲42.8
電力	273	296	▲23	▲7.8	3	33	▲30	▲90.2
海外	73	85	▲12	▲14.0	12	28	▲16	▲57.8
エネルギー関連	1,007	1,218	▲211	▲17.3	46	88	▲42	▲47.7
(エンジニアリングソリューション)	238	288	▲50	▲17.5	3	3	▲0	▲2.0
(LNG販売)	231	322	▲91	▲28.1	40	70	▲30	▲43.3
不動産	100	97	3	3.5	22	17	5	22.7
その他	188	172	16	9.1	2	6	▲4	▲69.3
調整額	▲454	▲479	25	—	▲109	▲100	▲9	—
セグメント合計	3,757	4,873	▲1,116	▲22.9	477	950	▲473	▲49.7

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

5ページ6ページに、セグメント別の売上高および営業利益に持分法損益を加えたセグメント利益とその要因を記載しておりますので、簡単にご説明いたします。

まず、当期よりセグメントの区分を変更しております。主な変更点は、これまで内訳として表示しておりました電力と海外を独立させたこと、器具及びガス工事をエネルギー関連に含めたことの2点になります。

2016年度1Q実績 経常利益分析 <対前年同期実績>



6ページをご覧ください。

都市ガスセグメントにて375億円の減益となっておりますが、これは原油価格が下がったことによる販売単価下落によって、粗利が290億円減少したこと、および減価償却費等の固定費が88億円増加したことが主な要因です。

続いて電力セグメントですが、30億円の減益となっております。本年2月に扇島パワー3号機が稼働開始したことによる販売量の増加は有ったものの、原油価格が下がったことによる販売単価の下落、小売り参入に伴う販売経費や減価償却費といった固定費の増加が主な要因です。

海外事業セグメントについては、原油価格下落による上流事業の減益の影響で、16億円の減益となっております。

エネルギー関連事業セグメントについては42億円の減益ですが、LNG販売事業におけるスライド差影響による利益の減少が主な要因となっております。

2. 2016年度 通期見通し



2016年度見通し 連結ガス販売量

今回見通し(対当初計画)

▲42百万m³ (▲0.3%)の減少
 [うち気温影響▲75百万m³, ▲0.5%の減少]

■ 家庭用	▲75百万m³ (▲2.1%)
● 気温要因	▲64百万m ³
● 日数影響	▲2百万m ³
● お客さま件数	0百万m ³
● その他	▲9百万m ³

■ 業務用	▲17百万m³ (▲0.6%)
● 気温要因	▲6百万m ³
● 日数影響	0百万m ³
● お客さま件数	+1百万m ³
● その他	▲12百万m ³

■ 工業用	+44百万m³ (+0.6%)
● 一般工業用:	▲12百万m ³
● 発電専用:	+56百万m ³

■ 卸	+6百万m³ (+0.3%)
● 気温要因	▲6百万m ³
● その他	+12百万m ³
卸供給事業者需要増等	

今回見通し(対前年度実績)

+120百万m³ (+0.8%)の増加
 [うち気温影響+226百万m³, +1.5%の増加]

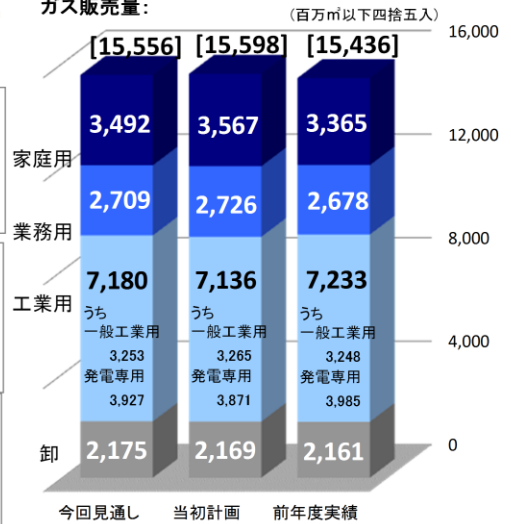
■ 家庭用	+127百万m³ (+3.8%)
● 気温要因	+152百万m ³
● 日数影響	+3百万m ³
● お客さま件数	+51百万m ³
● その他	▲79百万m ³

■ 業務用	+31百万m³ (+1.2%)
● 気温要因	+54百万m ³
● 日数影響	▲2百万m ³
● お客さま件数	+23百万m ³
● その他	▲44百万m ³

■ 工業用	▲53百万m³ (▲0.7%)
● 一般工業用:	+5百万m ³
● 発電専用:	▲58百万m ³

■ 卸	+14百万m³ (+0.7%)
● 気温要因	+20百万m ³
● その他	▲6百万m ³
卸供給事業者需要減等	

ガス販売量:



お客さま件数(万件)

	今回見通し	当初計画	増減
	1,153.7	1,153.7	0.0 (0.0%)
		今回見通し	当初計画
LNG液販売量(千t)	1,059	1,058	+1
平均気温(°C)	16.1	15.8	+0.3

家庭用は、第1四半期の気温が当初計画より高く推移したことから、7千5百万m³・2.1%下方に修正しております。

業務用は、第1四半期で既存のお客さまの使用量の減少があったこと等を反映し、1千7百万m³・0.6%下方に修正しております。

工業用は、第1四半期の一般工業用お客さまの稼働減等から1千2百万m³下方に修正したものの、発電需要について5千6百万m³上方に修正し、トータルでは4千4百万m³・0.6%増としております。

卸販売については、卸供給先事業者の需要増等から、6百万m³・0.3%上方に修正いたしました。

●ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	今回 見通し	当初計画	増減	前年度 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,556	15,598	▲42 ▲0.3%	15,436	+120 +0.8%
トーリングによる ガス自家使用量	2,053	1,949	+104 +5.3%	1,717	+336 +19.6%
LNG販売量(m3換算)	1,324	1,323	+1 +0.0%	1,434	▲110 ▲7.7%
合計	18,933	18,870	+63 +0.3%	18,587	+346 +1.9%

10ページには財務会計上のガス販売量にトーリングによるガス使用量とLNG販売量を加算したビジョンベースのガス販売量を表示しておりますので、ご参照ください。

2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対当初計画>



(単位:億円)

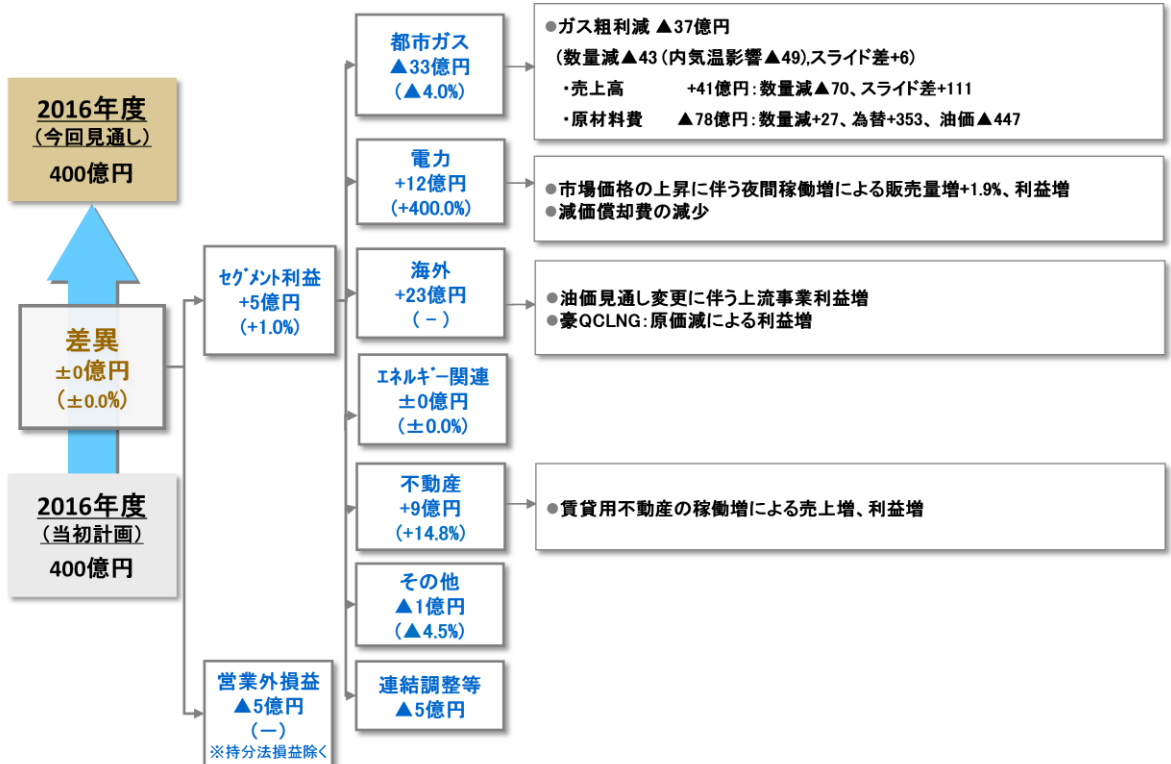
	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	当初計画	増減	%	今回見通し	当初計画	増減	%
都市ガス	10,273	10,228	45	0.4	794	827	▲33	▲4.0
電力	1,388	1,348	40	3.0	15	3	12	400.0
海外	276	304	▲28	▲9.2	23	0	23	—
エネルギー関連	4,641	4,717	▲76	▲1.6	81	81	0	0.0
(エンジニアリングソリューション)	1,112	1,113	▲1	▲0.0	37	37	0	0.0
(LNG販売)	881	815	66	8.1	35	34	1	2.7
不動産	411	401	10	2.5	70	61	9	14.8
その他	864	828	36	4.3	21	22	▲1	▲4.5
調整額	▲1,943	▲2,016	73	—	▲508	▲503	▲5	—
セグメント合計	15,910	15,810	100	0.6	496	491	5	1.0

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

11ページ12ページに、セグメント別の見通しと当初計画との主な差異要因を示しております。

2016年度見通し 経常利益分析

<対当初計画>



※符号は利益の貢献に対して表示

都市ガスセグメントは先ほどご説明した販売量減の影響により、33億円の減益としております。

続いて電力セグメントですが、夏場における発電所の夜間稼働増による販売量増等を見込み、12億円の増益としております。

海外事業セグメントについては、油価見通し変更による上流事業利益増を見込み、23億円の増益としております。

エネルギー関連事業については、当初計画から変更はなく推移していくものとしております。

2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前年度実績>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	10,273	12,946	▲2,673	▲20.7	794	1,920	▲1,126	▲58.6
電力	1,388	1,248	140	11.1	15	93	▲78	▲83.7
海外	276	301	▲25	▲8.6	23	41	▲18	▲43.6
エネルギー関連	4,641	5,504	▲863	▲15.7	81	255	▲174	▲68.1
(エンジニアリングソリューション)	1,112	1,370	▲258	▲18.9	37	73	▲36	▲49.3
(LNG販売)	881	1,243	▲362	▲29.1	35	149	▲114	▲76.4
不動産	411	393	18	4.4	70	61	9	▲14.6
その他	864	802	62	7.6	21	40	▲19	▲46.4
調整額	▲1,943	▲2,351	408	—	▲508	▲472	▲36	—
セグメント合計	15,910	18,846	▲2,936	▲15.6	496	1,941	▲1,445	▲74.4

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

13～14ページは、セグメント別情報を前年度と比較しておりますので、ご参照ください。

2016年度見通し 経常利益分析

＜対前年度実績＞

2016年度
(見通し)
400億円

差異
▲1,488億円
(▲78.8%)

2015年度
(実績)
1,888億円

セグメント利益
▲1,445億円
(▲74.4%)

営業外損益
▲43億円
(-)
※持分法損益除く

都市ガス
▲1,126億円
(▲58.6%)

電力
▲78億円
(▲83.7%)

海外
▲18億円
(▲43.6%)

エネルギー関連
▲174億円
(▲68.1%)

不動産
+9億円
(+14.6%)

その他
▲19億円
(▲46.4%)

連結調整等
▲36億円

- ガス粗利減 ▲735億円
(数量差+76(内気温影響+124)、スライド▲772)
・売上高 ▲2,691億円:数量増+147、スライド差▲2,830
・原材料費 +1,956億円:数量増▲71、為替+529 油価+1,263
●固定費増他 ▲395億円(減価償却費増▲168、年金数理差▲170 等)
- 小売参入、扇島パワー3号機通年稼働による販売量増+18.9%
●小売参入に伴う販売経費増
●扇島パワー3号機の減価償却費増
●市場価格下落による利益減
- 原油価格下落によるプレート等の上流事業利益減
●海外事務所における新規案件調査費の増
- LNG販売▲114億円:販売量減▲7.7%、スライド差▲105
●エンジニアリングソリューション▲36億円:工事量減少による利益減
●ガスター株式会社売却に伴い連結対象外となったことによる利益減▲17億円
- リース▲4億円:原価増による利益減
●船舶▲4億円:貨船収益の減
●情報サービス▲2億円:原価増による利益減
- 年金数理差▲48
- 投資有価証券売却益の減▲11億円
●為替差損益▲4億円(0→-4)
●受取賠償金の減等

※符号は利益の貢献に対して表示。

主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2016年度 見通し	2015年度 実績	2014年度 実績
総資産 (a)	21,880	22,515	22,576
自己資本 (b)	10,020	11,002	10,695
自己資本比率 (b)/(a)	45.8%	48.9%	47.4%
有利子負債 (c)	7,800	7,157	7,307
D/E レシオ (c)/(b)	0.78	0.65	0.68
親会社株主に帰属する当期純利益 (d)	350	1,119	958
減価償却 (e)	1,650	1,451	1,418
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,000	2,571	2,376
設備投資 (Capex)	2,480	2,320	2,245
ROA: (d) / (a)	1.6%	5.0%	4.3%
ROE: (d) / (b)	3.3%	10.3%	9.2%
TEP	▲228	676	434
WACC	3.4%	3.4%	3.6%
総分配性向	60%程度	60.1%	60.8%

注: 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)
 BS関連数値は各期末時点の数値
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

TEP (Tokyo Gas Economic Profit) について
 TEP = NOPAT - 資本コスト (投下資本 × WACC)
 ○株主資本 = 時価総額
 ○WACC算定諸元 (2016年度見通し)
 ・有利子負債コスト 実績金利 1.12% (税引後)
 ・株主資本コスト率
 ・リスクフリーレート 10年国債利回 0.44%
 ・リスクプレミアム 5.5% β 値 0.75

15ページは連結ベースの主要計数表を掲載しております。

3. 参考資料

原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲2	▲9	+11	0
	第3四半期	—	▲1	▲11	▲12
	第4四半期	—	—	▲3	▲3
	通期	▲2	▲10	▲3	▲15

円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲6	+4	+2	0
	第3四半期	—	▲6	+6	0
	第4四半期	—	—	▲8	▲8
	通期	▲6	▲2	0	▲8



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531